フィリピンと国際交流

鎌倉学園中3生がオンラインで

鎌倉学園の中学3年生が、フィリピンのスラム街に住む同世代の少年と交流し、SDGsなどについて話し合うオンラインスタディツアーが行われた＝写真。

ツアーは10月30日と11月6日行われ、3年生172人が2回に分かれて参加。大半が自宅参加だったが、登校した数人の生徒は担任の飯塚直輝教諭と各々パソコンを開いて通信した。

この企画は、英語の授業でフィリピンのゴミ山のことを学習することに関連して、オンライン国際交流プログラムを提供するWith The World（神戸市、代表取締役・五十嵐駿太さん）の協力で実現した。ツアー中の会話は英語で行われ、生徒たちはネイティブスピーカーの司会者の進行で、英語で自己紹介をした。

日本文化の紹介で、「福笑い」を説明しながら実演した薗口希海くんたち5人グループは、自分たちの意向がうまく伝えられず、段取り不足だったと残念がった。

紙飛行機を紹介した木嶋浩平くんは、「はじめはうまく話せなかったが、だんだんとコミュニケーションがとれるようになって、飛行機が飛ぶと喜んでくれてうれしかった」と手ごたえをつかんだ。

現地の高校生の生活の話を聞いたり、イロイロ市やゴミ山の実態やスラム街などの映像を見たりして町の様子を学んだ。

飯塚教諭は「今回英語がうまく話せなかったという経験も大切。次に頑張ろうという気持ちにつながれば」と話していた。

広町緑地で発表と交流

かまくら市民活動フェス

鎌倉で市民活動をしている団体が成果発表や情報を発信する「第23回かまくら市民活動フェスティバル」が11月13・14の両日、鎌倉広町緑地（鎌倉市津）で開かれた。新型コロナ感染拡大防止で密を避けるため初めて屋外で行われ、木洩れ日の中での展示や、樹木観察ツアー、ネイチャーゲームなどがあった。竹細工をしたり、ガマの葉を編んだり＝写真上、ほくほくの焼き芋に舌鼓を打つなどした。

子どもの姿も見られた。

13日は「第3回SDGsフォトコンテスト」の表彰式があり＝写真下、受賞者がSDGsへの思いを語った。大賞の鎌倉市長賞は「青空市自主保育でんでんむし」の作品で、同会は広町緑地を拠点に自然の中でごみを出さないなど環境に留意した取り組みをしていることを紹介。市議会議長賞の大森剛琉くんは学生団体「ヨリドモ」を主宰し、海岸でのごみ拾いイベントなどを開催していること、鎌倉朝日賞の佐藤秀樹さんは家庭菜園のネギ坊主と親子の風景を撮り、日ごろから土と親しんでいること、SDGs活動支援センター賞の建長寺・鎌倉市観光協会は、建長寺に伝承されている「建長汁（けんちんじる）」のもったいない精神などを各々語った。

鎌倉でSDGsの大切さ体験

湘南地区ボーイスカウトラリー

令和3年度湘南地区スカウトラリーが11月3日、鎌倉海浜公園で行われた＝写真。

湘南地区のボーイスカウトとその指導者が集まり、ゲームを通じて交流し、スカウト運動への理解を深める催しで、昨年はコロナ禍でネット開催だった。会場に一堂に会すのは2年ぶりで約500人が参加した。

テーマは「私たちに今できること」～わかりやすく理解できるSDGs。開会式で協議会長・大会長の太田利子さんは、「SDGsの大切さを体験してほしい」と挨拶。

園児から大学生までそれぞれの団が会場を巡り、風車を作ってエネルギーのことを考えたり、紙工作の葉っぱや果物を張り付けてオランウータンの森を再生して地球防衛団になったり、インドやアフガニスタンの貧困などのクイズに答えながら学んだ。目隠しをして歩き、身体に障害を持った人の立場で考え、行動するためのゲームもあった。

由比ガ浜海岸では、マイクロプラスチックの採取も行われ、小さなガラス瓶が30分ほどでいっぱいになった。

指導者の辰巳哲夫さんは「ボーイスカウトの基本はよりよき社会人をつくること。多くの子どもたちに参加してほしい」と話していた。

文学つれづれ　192

司馬遼太郎『宮本武蔵』

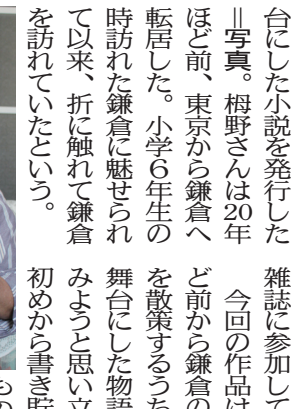
赤羽根龍夫

司馬遼太郎は宮本武蔵について二冊書いている。『真説宮本武蔵』（講談社文庫）では武蔵と同じ1582年（天正10）に生まれた幕臣・渡辺幸庵の聞書きを引用する。幸庵は徳川家光の弟・忠長の付家老になり、柳生宗矩から免許皆伝を受け、1711年（宝永8）に130歳で没したという。

武蔵は宗矩よりはるかに強かったが、それほど強い武蔵が、将軍家の師範・宗矩と立ち合うことは無理としてもその門下の達人や小野次郎右衛門など剣歴の明らかな達人と立ち合わなかったという「武蔵非名人説」の根拠となっている疑問に対して、武蔵は、生涯風呂にも入らず風采も上がらず「偏執者に近いけん介孤高な性格」であったので権門に近づかなかったからであるという。

一方、司馬は、武蔵は武芸だけでなく詩歌茶道など諸芸に長じおり天才であったことは間違いないとして、『五輪書』の文章を絶賛している。

明治以前の文章家のなかで、平易達意の名文家は、著者不明の『歎異抄』や室町末期に本願寺を中興した蓮如上人（白骨の文章）と宮本武蔵のほかはみられない。



『宮本武蔵』司馬遼太郎著（朝日新聞出版）

小説形式で書かれた『宮本武蔵』（朝日文庫）では、吉川英治が武蔵の剣と小次郎の剣の違いを「剣と技や力の剣」としたのに対し、武蔵の剣は道を求める技能者の剣であり、小次郎は単に早さだけを競う技術者の剣であるとする。

司馬遼太郎は吉川英治の「魂を磨」いたり人間形成をする武蔵像はない。むしろ吉川英治のそうした修養的な武蔵像を覆すことに執念を燃やしたと言えなくもない。

しかし、司馬遼太郎も吉川英治と同じように、武蔵の最終目的を「大将としての指揮」および政治に関わる「大なる兵法」の実践者たらんとしたという視点を堅持している。ただ吉川英治がそこに武蔵の真面目を見ているのに対し、司馬遼太郎はそこに武蔵の時代錯誤的な滑稽な姿を見ている。

司馬遼太郎の武蔵に対する歴史認識には吉川英治のような修養的な発想はなかったが、やはり武蔵を江戸中期以降の儒教精神から見る眼に曇らされており、武蔵を戦国時代末期から江戸時代初期に生きた人物であると正しく位置付けることが出来なかった。

歴史上の武蔵は『五輪書』でも「勝つ」「敵に勝つ」と何度も書いているように、29歳の巌流島を最後に決闘はやめて、天下一の兵法者たらんとひたすら「兵法の理」を求めた武芸者であり、そこに武蔵の真面目と偉大さがあったのである。

武蔵の江戸時代になっても大将や治世者たらんとした「いやらしい天才」像は司馬遼太郎が武蔵に付け加えた虚像であって、武蔵の実像からはかけ離れている。

さらに司馬遼太郎は吉川英治同様、武蔵は「剣禅一如」を求めたと考えている。

彼自身、この若さではなお途上のひとであり、ただ禅にすがり、禅によって剣を考え、さらに剣理よりもさらにそれ以上の空の心境にまで自分を深めようとしていた。

武蔵に「万理一空」という語があるので武蔵と禅を結びつけるが、「万理一空」は相手の見えない動きの中から意図を見るという剣の術理の問題であり、仏教的・精神的な「空」とは関係はない。

司馬遼太郎の真骨頂は幕末史であり、土方歳三を描いた『燃えよ剣』は素晴らしい！

（神奈川歯科大名誉教授）

新刊

『古都鎌倉　短歌を携えて巡る鎌倉の神社・仏閣』　平塚宗臣 著

鎌倉の寺社など37カ所を巡り、解説と現地で詠んだ短歌を10首ずつ紹介する『古都鎌倉』が刊行された＝写真。

地図に番号入りで場所も示されているので、短歌で観光のポイントをおさえながら古都を散策できる。

「参道は海に連なり頼朝に海路伊豆への思ひありけむ」。著者の平塚宗臣さんは若宮大路の歌を詠み、源頼朝が建造した若宮大路の参道は由比ガ浜の海へと伸びていて頼朝の思いを物語っていることを話す。

平塚さんは、銀行の副頭取を65歳で退任後、郷土史と短歌の勉強を始めた。三枝昂之氏に師事し、運動と頭の体操にと今も毎週講座に通っている。

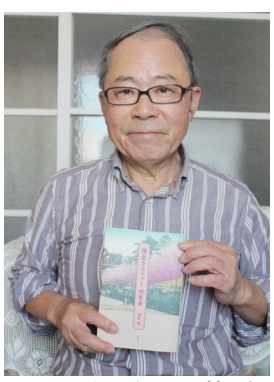
所属する「りとむ短歌会」の会報に6年に渡り掲載してきた作品に手を加えて1冊の本にまとめた。100年後も使えるオンリーワンの歌集をつくろうと思ったという。現在、日本歌人クラブ会員、所沢郷土美術館館長。

1100円（税込み）角川文化振興財団刊。

◆読者プレゼント著者のご好意で5名様に。往復ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号、鎌倉朝日の感想を書いて1面題字下住所の鎌倉朝日へ。12月10日必着。多数抽選。

『鎌倉カルテット四重奏』

梅野陽 著



鎌倉市大町在住の梅野陽さん（73）が鎌倉を舞台にした小説を発行した＝写真。梅野さんは20年ほど前、東京から鎌倉へ転居した。小学6年生の時訪れた鎌倉に魅せられて以来、折に触れて鎌倉を訪れていたという。

小説を書き始めたのは、大学時代で、学内の同人雑誌に参加していた。

今回の作品は、10年ほど前から鎌倉のあちこちを散策するうちに鎌倉を舞台にした物語を作ってみようと思い立ち、60代初めから書き貯めていたもの。昨年、仕事をリタイアし、本腰を入れてそれをまとめて出版した。

鎌倉時代、江戸時代、大正、昭和の4つの時間軸でできあがった物語が鎌倉という共通の場所で、1つに繋がっている。

「果たしてこの四重奏が調和のとれた音楽を奏でているかどうか」とあとがきに書いている。

園芸が趣味で、この1、2年はコロナ禍で中止しているが、毎年5月に自宅のイングリッシュガーデンを公開している。

1980円（税込み）、港の人刊。

八幡宮前・蒲焼専門店
うなぎ　茅木家
☎（22）1460

鎌倉大町歯科
KAMAKURA OMACHI DENTAL
歯科・矯正歯科
（各種保険取扱／初診　急患随時受付）
鎌倉市大町4−1−7
（木曜、日曜、祝日休診）☎0467-81-4488
http://www.kamakura.dental/index.html